

**実地研修会「東日本大震災の復興と現状
～復興道路・復興支援道路の全線開通と
3.11震災伝承への取組み～」を開催**

実地研修会「東日本大震災の復興と現状」が、令和3年7月15日（木）～16日（金）の日程で、35名の参加を得て宮城県気仙沼市他で開催されました。

このたびの実地研修会は、会場収容人数150名のところ募集人数44名、大型バス乗車定員49名/台のところ22名/台×2班編成、交流会なしとし、新型コロナウイルス感染症における必要な対策を講じた上で実施しました。

初日は、気仙沼市内において翌日の現地視察の事前学習のため、国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所の中尾吉宏所長、東北国営公園事務所の佐々木貴弘所長、（一財）3.11伝承ロード推進機構の原田吉信事務局長の講義を行いました。

2日目の現地視察は、高田松原津波復興祈念公園、東日本大震災津波伝承館、三陸沿岸道路気仙沼道路、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館等を視察しました。気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館では、語り部の九死に一生を得た体験談などを聴きながら、施設見学を行いました。



東北地方整備局仙台河川国道事務所
中尾吉宏所長の講義の様子



高田松原津波復興祈念公園事業の視察の様子

**第2回公共工事品質確保技術者
資格認定委員会の開催**

－公共工事品質確保技術者資格認定委員会－

令和3年8月4日（水）、木下誠也委員長（日本大学危機管理学部危機管理学科教授）をはじめ委員8名の出席のもと、第2回公共工事品質確保技術者資格認定委員会がWEB会議で開催されました。

委員会では下記の議事が審議され、すべて了承されました。

- 令和3年度公共工事品質確保技術者資格試験書類審査結果について
- 論文審査及び面接試験に関する実施要領（案）について
- 面接試験用試問事項シート（案）について

－主な意見

- ・今年受験者数は136名とのことであるが、受験者数の推移について何か感じていることはあるか。
→当試験は開始後約10年を経ており、その間、受験者数は減少する傾向で推移してきている。ただし、昨年は増加した。他の資格試験でも同様の傾向のものがあり、コロナの影響により将来への不安から資格を求めるようになったのではないかと、テレワーク等の普及で自由な時間が増えたために受験者の増に繋がったのではないかといった見方がある。
- ・各地方整備局では、品質確保技術者が工事発注の総合評価の審査等で活躍していただいております。品質確保技術者を安定的に確保していくことが重要である。